

令和 7年 11月 19日

磐田市議会議長 鈴木 喜文 様会派名 せいわ会

代表者 平田 直巳

会派視察研修等報告書

会派視察研修等の結果について、磐田市議会政務活動費の交付に関する規則第5条の規定により、下記のとおり報告します。

記

期 間	令和7年 11月 12日(水)～令和7年 11月 14日(金)3日間
視察先 研修会	日 程 (1) 11月 12日 (水) 時間：10：30～12：00 (2) 11月 13日 (木) 時間：13：00～16：30 (3) 11月 14日 (金) 時間：10：00～11：30
参 加 議 員	戸塚 邦彦、平田 直巳 本間 昭男、加藤 公人
調 査 事 項	(1) 神奈川県藤沢市「藤沢市立鵠沼海浜公園 HUG-RIDE PARK」の視察 ・PFIにした経緯について ・PFIにしてよかった点、反省点と課題について ・これからの展開について (2) 秋田県能代市「エナテッド リニューアルエナジー(株)ハ イマス発電所および秋田洋上風力発電(能代湾洋上風力発電所)」の視察 ・漁業や海洋生態系への影響と対策について ・地域雇用や関連産業への波及効果について ・今後の事業拡大や再エネ政策との連携について (3) 秋田県秋田市「秋田洋上風力発電(秋田湾洋上風力発電所)」の視察 ・漁業や海洋生態系への影響と対策について ・地域雇用や関連産業への波及効果について ・今後の事業拡大や再エネ政策との連携について
調 査 内 容 考 察	別紙のとおり

(注) 視察研修の調査内容及び考察は、視察先ごとに詳細に記入する。  
調査事項等に係る資料等を添付する。



## 会派視察研修等報告書

### 【視察日時及び視察先概要】

11月12日（水） 10:30～12:00

視察先:藤沢市立鵠沼海浜公園「HUG-RIDE PARK」

所在地:藤沢市鵠沼海岸四丁目 5218 番 1

### 【視察内容】「藤沢市立鵠沼海浜公園 HUG-RIDE PARK の視察」

鵠沼海浜公園にて

- ・PFIにした経緯について
- ・PFIにしてよかった点、反省点と課題について
- ・これからの展開について
- ・その他

担当課より概要説明の後、質疑・応答。

### 【考察】

・本事業では、マーケットサウンディング調査を実施した上で、公募設置管理制度 (Park-PFI) を活用し、民間事業者による公園整備・管理運営が行われている。整備された施設には、初心者からプロまで幅広く利用できるスケートパーク、飲食施設、眺望テラス、シャワーやロッカーなどの付帯設備が含まれており、イベント時には臨時駐車場として活用できるスペースも確保されている。これらにより、地域住民および来訪者が楽しめる新たなライフコミュニティが創出されている。

・事業の計画段階では、住民意見を直接聴取する機会は設けられなかったものの、マーケットサウンディングにおいて行政だけでは得られない多様なアイデアや専門的知見が反映され、事業形成や公募条件の設定に活用された。また、民間事業者による企画提案においては、地域の特性や利用者ニーズが十分に考慮されており、土地柄に適したニュースポーツの導入・推進につながっていると思われる。

・事業費は総額約 6.5 億円であり、市の負担は解体撤去費の約 1.3 億円に限られた。その後の整備費および管理費等は事業者負担で行われている。また、市には毎年約 500 万円の賃料収入が発生する仕組みとなっており、Park-PFI の導入が行政コストの軽減および独自財源の確保に寄与している。なお、運営を担う鵠沼海浜公園 GROWING PARK グループは、小田急電鉄株式会社を中心とした 10 法人による JV であり、採算性を確保しつつ地域の活性化に寄与する公民連携の好事例と思われる。

・本視察を通じ、Park-PFI を活用した公園整備は、本市においても十分に導入可能であり、行政負担の軽減と民間活力の活用という観点から有用であると感じた。

特に、竜洋海洋公園など広域的な集客が見込める公園においては、民間事業者のノウハウを活かした施設整備の導入を検討する価値がある。また、「スポーツのまち NO.1」を掲げる本市においては、総合スポーツ公園をはじめ、市内スポーツ施設の将来像について早急に検討し、ニーズに応じた施策を迅速に意思決定していく必要があるのではないかと考える。本視察で確認したように、Park-PFI は公共施設の質向上と地域活性化を両立させる有効な手法である。今後、本市においても、協力的で採算性の高い民間企業との連携を積極的に模索し、公園およびスポーツ施設の魅力向上に取り組むべきである。

### 【視察日時及び視察先概要】

11月13日（木） 13:00～14:00

視察先: ユナイテッド リニューアルエブルナジー(株)バイオマス発電所

所在地: 秋田県秋田市向浜1丁目8-1

### 【視察内容】「バイオマス発電所の視察」

担当者より説明の後、質疑・応答。

バイオマス発電所施設見学

### 【考 察】

・本視察では、秋田県において未利用材を活用したバイオマス発電事業を実施している施設を調査し、林業振興、地域経済への波及効果、燃料の安定供給体制などについて確認した。本事例は森林資源の循環利用と地域産業の活性化を両立させる取り組みであり、本市における再生可能エネルギー政策を考える上で参考となるものである。

・施設では、秋田県産の未利用材(間伐材や枝など山林に放置されている木材)を原料とし、木材チップを燃料としたバイオマス発電を行っている。この仕組みにより、森林内の残置材の有効利用が進むとともに、林業の活性化、山林の健全化、地域雇用創出など、多方面に効果が波及している。

・発電に必要な大量の木材チップを安定的に供給するため、林業、運送業、製材業など周辺産業の活性化が進んでいる。燃料供給体制の構築に伴い、新たな雇用機会が創出され、企業規模の拡大も見られるなど、地域経済への寄与が見受けられている。

・磐田市周辺には天竜杉をはじめとした森林資源が存在し、同様の仕組みを導入する余地はあると考えられる。また、袋井市の遠州フォレストエナジーにおいてもバイオマス発電が行われており、地域としての取り組みの広がりも見られる。しかし一方で、燃料となる木材チップの安定確保、運搬コストの負担、供給体制を維持するための産業基盤の整備など、解決すべき課題も多く、現状では同規模の事業を市単独で進めることは容易ではないと考えられる。そのため、今後本市がバイオマス発電事業へ関わる際には、森林組合との連携強化や広域的な資源の活用体制構築が必要であると考ええる。

・今回の視察を通じ、未利用材を活用したバイオマス発電は、森林資源の循環利用と地域経済の活性化を同時に達成する有効な手法であることを確認した。本市において取り組む場合は、資源の確保や運搬体制などの課題の整理とともに、関係団体との協働体制の構築が不可欠であると考えられる。

### 【視察日時及び視察先概要】

11月13日（木） 16:00～17:00

視察先:秋田洋上風力発電(株)能代湾洋上風力発電所

所在地:秋田県能代市字大森山「はまなす展望台」

11月14日（金） 10:00～11:30

視察先:秋田洋上風力発電(株)秋田湾洋上風力発電所

視察先:秋田県秋田市土崎港西1丁目10-45「AOW 風みらい館」

### 【視察内容】「秋田洋上風力発電(株)秋田湾洋上風力発電所の視察」

能代湾・秋田湾洋上風力発電所関連施設にて

- ・漁業や海洋生態系への影響と対策について
- ・地域雇用や関連産業への波及効果について
- ・今後の事業拡大や再エネ政策との連携について
- ・その他

担当課より説明の後、質疑・応答。

### 【考 察】

・本視察では、秋田県において稼働している洋上風力発電事業について調査し、建設コスト、技術的課題、地域との調整状況、環境への影響、再生可能エネルギーとしての将来性について確認した。洋上風力発電は近年注目される再エネ事業であり、本市におけるエネルギー政策形成の参考となるものと考えられる。

・秋田県の洋上風力発電施設は、1基あたり約30億円(送電設備工事を含む)の建設費を要している。近年は材料費および人件費の高騰により、採算性が厳しくなっている状況が説明された。また、遠州地方は台風の通過が多く、洋上設備の設置においては構造的リスクが大きいことも確認した。

・能代湾洋上風力施設は、漁業権の設定されていない海域に設置されており、建設工事は地元漁業者の休漁期に合わせて実施されている。これにより、漁業者との関係は良好であるとの説明を受けた。また、稼働後の海底調査において、風車基礎周辺に多様な魚類の生息が確認され、漁礁としての機能が生まれていることも報告されている。

・事業化にあたっては、騒音、鳥類への影響、海洋生物や生態系、景観、漁業権など、環境面に関わる項目について徹底した調査が行われている。これらの調査結果を踏まえた計画立案により、環境負荷を最小限に抑えつつ事業が進められている点が特徴である。

・地球温暖化への対応が国際的に求められる中、化石燃料の使用抑制が重要な課題となっている。洋上風力発電は、再生可能エネルギー導入の切り札として高い注目を集めている。

・本視察を通じ、陸上とは異なる高度な建設技術・送電技術が必要であることを理解するとともに、海中設備周辺で豊かな生態系が確認されるなど、新たな知見も得ることができた。さらに、国際情勢により燃料輸入が不安定となる可能性を考慮すると、国内で安定的に発電できる風力発電の重要性は今後さらに高まると考えられる。

・遠州灘沖は年間を通じて強風が安定して吹く地域であり、洋上風力発電の適地として研究価値があると考えられる。一方で、建設コストの高騰や台風リスクをどのように克服するかは今後の大きな課題である。

本市としては、地域の自然条件や漁業者との調整、環境影響評価の在り方など、今回の視察で得た知見を参考にしつつ、再生可能エネルギー導入の可能性について中長期的に検討を進める必要がある。

・秋田県の洋上風力発電事例は、地域との合意形成や徹底した環境調査、風況を最大限活かした施設整備など、多くの学びが得られる先進的な取り組みであった。磐田市においても、持続可能なエネルギー政策の構築に向け、洋上風力発電の可能性を含めた再生可能エネルギーの活用を検討していく必要があると考える。